

—
みつめ、考えるための建築
—人々が行き交うホームの上—

21118058
指導者

氏名 箕輪 久子
宮 晶子 准教授

みつめる	時間	反道具
道具	日常	非日常

問題意識

近頃、みつめ続けることの重要性をととても感じている。私たちは時間の流れという長いスケールの中において、自分ともまわりともそのスケールの中でつきあってゆくことになる。そして、すべてのものは絶えず変化し続けている。何かの本質とは、一点や一瞬にあるのではない。自分も周りもそれぞれくるくる回り続けていて、時々によって自分のみている方向も変われば、モノゴトが自分に向けている面も変わる。そのタイミングごとに、まったく新しい世界があるかもしれない。世の中には、正しいことも間違っていることもないのであるから、だからこそひとりひとりが常に自分で感じ、とらえ、判断することが、様々な生き物、個人が共存しているこの世界の中で生きて行く上では大切なことである、と考える。

しかし現代の東京のまちにおいては、考える時間も場所も持たない人が多いのではないだろうか。現代人は、取り決められた流れに乗り、常に誰かの発信した情報を摂取し続けながら、それらを反芻し吟味する時間をなくしてしまった。この状況に危機感を感じる。

テーマ

人が、“わからない自分自身”をみつめたり、既存概念としてスルーしているものにもう一度、未知を見つけたりするような時間を内包する場所や場面としての建築。そして人は外の世界と囲われた内側の空間とを行ったり来たりし、そのリズムの中で時を刻んでゆく。

道具と反道具

現代の都市において人が考える時間を失った要因として、都市が道具で溢れ返っている状況を挙げる。その状況に対する改善策を探る中で、山崎正和が著書「装飾とデザイン」の中で用いている「反道具」という言葉に着目した。

反道具は道具の対となるような非機能的な存在として登場する。著者は、道具が生産のための手段であり、人の行動を定式化、習慣化するものであるのに対し、反道具は消費のための手段であるとし、さらにそれ自体とし

て注意を要求する個物であり、みずからの周りに非日常という別種の時間を形成するものであると述べ、例のひとつとして日本の茶室を挙げている。

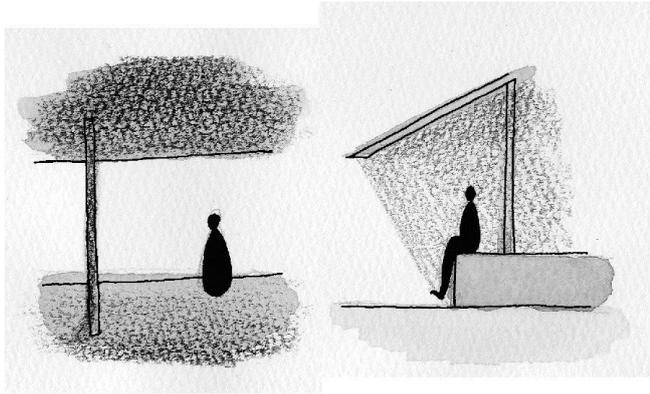
道具という存在で溢れた日常の中で過ごす人々は、考えることを省いてしまう。そこで、人が思考する姿勢を保ち続けるためには、日常の枠組みの外側からモノゴトを眺めることのできる、反道具的空間が必要であると考えられる。それは何かを得るために過ごす場ではなく時間を過ごすことで何かを得ることができる場所であり、人はみつめ続けることにより、そこからみる景色に反道具としての何かをみとめることができるようになるのではないだろうか。

反道具的空間の採取

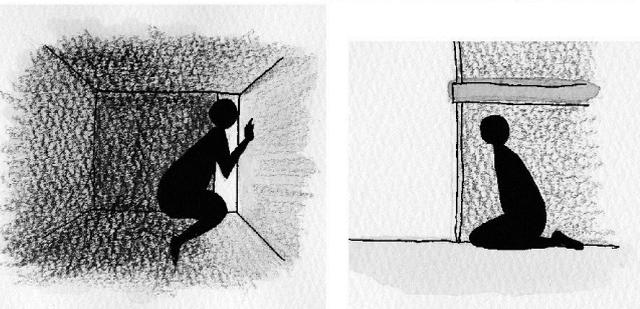
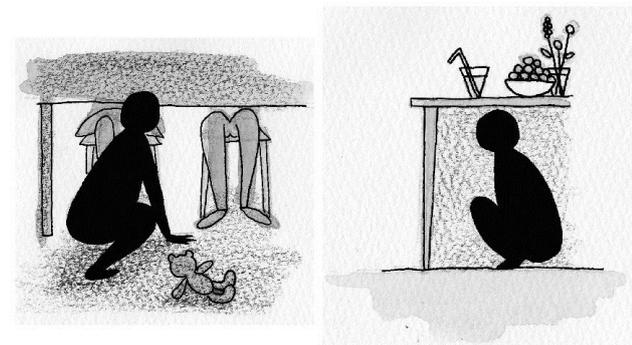
具体的に、反道具的空間とはどのような空間なのであるだろうか。自分の感覚、過去の体験と文献から得た他人の感覚、体験、意見を照らし合わせながら、過去における反道具的空間、また現代において日常の中に埋もれて存在するそのような場所、場面を採取した。参考とした文献として、「森の生活」、「陰翳礼讃」、「小さな風景からの学び」を挙げる。



用いて設計を行う。

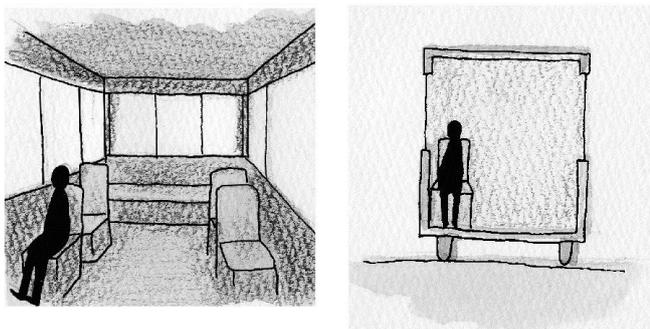


- ・ 目線を変える
 - I 窓の開け方（視界の切り取り方）
 - II 高さ（観察者の立ち位置、視線の高さ）
- 世界を少し新鮮に捉える
- 世界から心理的に距離を置く
- ・ 暗い中から明るい外を眺める、中と外との照度の差をつくる
- 外の世界の解像度を高く見せ、視覚の感度を上げる
- 中にある自身の存在感を薄める
- ・ 重心を低くする
- 自身の身体性をより感じ、自分という固体を意識する
- 腰を据えて落ち着いて眺める
- ・ 素材感の違い
- マットな表面は存在感を和らげ、光沢のある面は周囲のものの存在を映し出す



敷地

今回は「電車」「線路」「プラットフォーム」という、道具およびその道具のためにつくられた空間に着目、そのすきまを見つけ、反道具的空間を挿入する。実際の場所として東京で最も利用者数の多い JR 山手線、そのなかでもターミナル駅として多くの人が行き交う新宿駅を対象とする。



反道具的空間要素の採取例のスケッチ

手法

道具にあふれた現代の都市、東京のまのすきまに、反道具的空間をつくる。

採取した反道具的空間からポイントとなる空間的要素を抽出し、さらにそこから導き出した操作として以下を

参考文献

- ・「装飾とデザイン」 山崎正和著、中央公論新社
- ・「Ex-formation はだか」 原研哉+武蔵野美術大学原研哉ゼミ著、平凡社
- ・「森の生活」 H.D ソロー著、岩波文庫
- ・「陰翳礼讃」 谷崎潤一郎著、中公文庫
- ・「小さな風景からの学び」 乾久美子+東京藝術大学乾久美子研究室著、TOTO 出版